



# 洋上アルプス

No.307

2020年10月5日

発行  
林野庁屋久島森林生態系保全センター



バックナンバーや屋久島国有林における入林申請等は  
こちらにあります  
[http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima\\_hozen\\_c/](http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/)



鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1

TEL0997-42-0331 FAX0997-42-0333

## 令和2年度（夏季）インターンシップの受け入れ

（9月14～18日）

東京農工大学3年の小幡さんと九州大学2年の小林さんの2名が、当保全センターにおいて1週間、農林水産省就業体験実習を行いました。

初日は所長より当保全センターの概要等を説明した後、有害鳥獣捕獲（ヤクシカの捕獲罠の設置方法）また雨量計の調査データ収集の手伝いを行いました。

2日目以降は屋久島の森林の垂直分布状況、外来種アブラギリの対策、高層湿原の水流調査また、ヤクス



左：東京農工大 小幡さん 右：九州大学 小林さん

ギランド等において屋久島の植物についてなど学び、最終日はセンター内において入林関係などの事務業務を体験しました。

実習生からは、屋久島における森林生態系の保護と林業を同時に学ぶことができ大変勉強になった。屋久島の雄大な自然に触れ楽しかったなどの感想をいただきました。今回の就業体験実習が今後活かされることを期待します。



屋久島の植物について説明を聞く実習生

## 令和2年度 林業遺産現地検討会

（9月18日）

屋久島の林業集落跡や森林軌道跡は、平成29年5月23日に一般社団法人日本森林学会において「林業遺産」に認定・登録されています。

屋久島森林管理署はこの貴重な林業遺産を適切に保全していくため、令和2年度の林業遺産現地検討会をジトンジ地区森林軌道跡等において、国立歴史民俗博物館の柴崎准教授及び鹿児島大学の奥山助教、同大学4年生西川さん、森林管理署及び保全センターの職員総勢16名参加のもと開催しました。



炭窯跡の説明を聞く参加者

現地検討会は今年で4回目を迎え、当日は日本森林学会林業遺産選定委員でもある柴崎准教授の指導のもと森林軌道跡や炭窯跡及びインクラインなどの説明を受け、今後も林業遺産を適切に保全し、後世にその価値が受け継がれていくように努めていくことを確認しました。

## 小島九州森林管理局長が来島 (9月1~3日)

令和2年4月1日付けで九州森林管理局長に就任された小島孝文局長が屋久島を巡閲されました。

本来は7月に来島の予定でしたが、新型コロナの影響で9月の来島となりました。

初日は、当保全センター所長から管内の説明を受けられました。小島局長からは屋久島は日本の国有林を代表するところであり、ここで仕事をすることに誇りをもって職務に専念されたい。との訓示を受け



当保全センター職員へ訓示をする局長



災害復旧箇所について説明を受ける局長

ました。その後、屋久島森林組合を表敬訪問されました。

2日目には屋久島地杉加工センター及び昨年5月の大雨により被害を受けた災害箇所の復旧状況を視察、屋久島森林管理署と今後の対応について協議されました。

最終日には荒木耕治屋久島町長を表敬訪問し、2泊3日のスケジュールを終えました。

## 2020年 夏休み期間中の森林パトロールを実施 (8月1~24日)

屋久島森林管理署及び当保全センターにおいて、登山客への安全の呼びかけや保護林内の状況把握を行う「夏休み期間中の森林パトロール」を行いました。

①宮之浦岳、②黒味岳、③永田岳、④縄文杉、⑤太忠岳、⑥大株歩道、⑦太鼓岩、7コースを3人1組で行い、8日間、延べ25名で登山パトロールを実施しました。

今年は新型コロナウイルス感染防止対策として屋久島町から山泊を控えるよう要請もあり、例年に比べて山泊での登山者が少なかった反面、7月に高盤岳に向かった女性の方が遭難するという痛ましい事故も発生しており、必要に応じて下山を勧めるなどの対応も考慮に入れ登山者に対する声かけを行いました。

今後、地域の関係者と連携しながら安全で楽しい登山となるよう呼びかけていきたいと考えます。

また、登山者の皆様には、体調や気象の状況に十分注意され無理のない登山をお願いします。



投石平から宮之浦岳を望む

## グリーン・サポート・スタッフ『GSS』の紹介

当保全センターでは、世界自然遺産地域を含む森林生態系保護地域等の森林パトロールを行い、軽微な歩道の修理、植生や著名木の衰退状況把握また、登山者への安全マナー指導等を実施するための職員、グリーン・サポート・スタッフ(GSS)3名が森林パトロールを行っています。

今回、欠員が出たため公募により1名を採用しました。

新たに保全センターの一員となった、高見さんは屋久島で永年ガイドを務め登山経験も豊富です。

今後も当保全センターの活動にご理解とご協力をお願いします。



9月より採用の高見GSS

## 岳参りの実像 (第1回)

中川正二郎 (宮之浦岳参り伝承会 代表)

宮之浦地区の「岳参り」の復活に取り組んでから早16年。屋久島の精神性を代表する最も重要な行事でありながら、現在の島民のほとんどは経験がなく、その実態を知りません。地区により微妙に異なりますが、その知られざる姿を宮之浦地区を例に3回に渡ってお伝えします。

岳参りは、およそ500年前に法華宗の日増上人が長田村から岳に登って八重岳の震動を鎮めたことが始まりとされています。初期の実態は不明ですが、永田岳の祠が享保7年(1723)、宮之浦岳の祠の一つも江戸期のものですから、少なくとも二、三百年の歴史があるのは確かです。

屋久島の岳参りの特徴は、個人的な参詣登山ではなく、代表者(所願/とこーがん)を立てて集落の安寧を願う集落行事であることです。戦後多くの集落で途切れましたが、世界遺産登録前後から再び山との関わりが濃密となる中で、自然発生的に各集落は岳参りを復活させ、現在では24集落中20集落ほどが何らかの形で実施しています。

宮之浦集落の岳参りの起源は不明ながら、戦後まで青年団により続けられ、昭和31年(1956)頃、現在86歳の方々を最後に途切れてしまったようです。それから半世紀近く経った2005年、島の最高峰宮之浦岳を御神山とする集落が岳参りを行っていないことを憂い、私達有志5人で区と相談の上で復活に取り組みました。他集落のやり方を参考にしたり、経験者を見つけ出して話を聞くなどして試行錯誤を繰り返し、現在に至っています。その間徐々に若者達も加わり、近年は毎回十数人で行なっています。

実施日は、春と秋の2回。旧暦の5月と9月の内を目安に、現在の5月下旬と10月下旬に日帰りで実施しています。10周年(2014)の時だけ、健脚者5人が昔と同じように浜から山頂まで1泊かけて全行程を歩き通しました。参加資格は宮之浦の住人であり健脚であれば、男女宗教を問いません。ただし、無補償、無報酬、すべて自己責任。唯一、晩のご馳走がご褒美です。

元来、岳参りに装束などないのですが、私達は法被と竹笠を着用しています。私達のルートは登山者が多く、それと区別するためと、岳参りの姿から神住む神聖な場所であることの啓蒙になると考え、あえて目立つようにしました。また、参加者にも使命感と心の張りができました。

ここからは、実際にしている事を時系列でお伝えします。

朝3時半、益救神社に集合。全員で当日の無事を祈願します。すぐに浜(当初は神社前の権現浜でしたが、現在は新港横の一品ヶ浜)へ車で移動し、山の神様へ届ける「一番砂」を取ります。一番砂とは、まだ誰も足を踏み入っていない浜の砂のことです。まずは全員浜辺に整列し、所願の二人が海水に浸した榊の枝で一人一人を清めます。それから各自砂を取りますが、波打ち際の潮に濡れた砂を取ります。長老達に聞くと「スエ(潮)」を持っていく代わりらしいので、砂と言うより海の塩を届けるという意味合いが強いようです。砂浜のない湯泊地区などでは、潮に濡れた小石を持って行ったそうですし、宮之浦でも戦後まだ帰らぬ出征兵士の無事を願って浜の小石を託したという話もあります。(つづく)



写真1. 松明を掲げて浜に並ぶ参加者達



写真2. 潮に濡れた砂を竹筒に取る

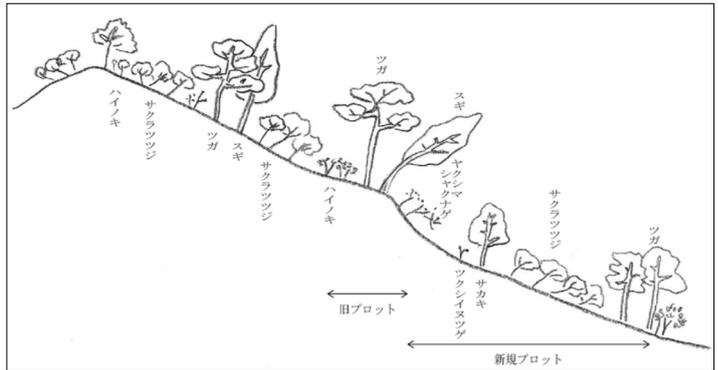
# 屋久島生態系モニタリング



## 屋久島南部等地域の垂直方向植生モニタリング（平成30年度）

### ●標高 1200m プロット（湯泊歩道沿い）

[調査結果概要] 確認種数：66種（H25年度：57種）。ツガ、スギが優占する針葉樹天然林。空中湿度が高く、着生シダは本調査地では初めてのものを含め8種を確認。①③⑥⑦プロットでヤクシカの糞が確認され、センリョウ、サカキ、オニクロキに食痕を確認した。不嗜好植物のセンリョウに食痕が確認されたことから、餌が不足し、ヤクシカが採餌しながら徘徊していることが推測される。



標高1200mプロット（湯泊林道沿い）の群落横断面図

### [優占種の変化]

階層区分	平成15年度	平成20年度	平成25年度	平成30年度
高木層 (8.0m以上)	ツガ	ツガ	ツガ	ツガ
亜高木層 (5.0m～8.0m)	サクラツツジ	サクラツツジ	サクラツツジ	サクラツツジ
低木層 (2.0m～5.0m)	ハイノキ	ハイノキ	ハイノキ	ハイノキ
草本層 (2.0m未満)	ハイノキ	ハイノキ	ハイノキ	ハイノキ

### [衰退樹木等のモニタリング（調査対象木：4本）]

- ・枝抜け跡や内部に腐朽が進行し、衰退している樹木が見られた。
- ・樹勢は2本にやや衰退、2本に衰退が見られた。衰退のうち、1本は腐朽が進行し辛うじて生存している状態にある。

標高	1,200m	樹木No.654	小プロット②	樹種	スギ
緯度経度	N30.27581 / E130.49615		調査日	H30.11.16	
樹高(m)	7.3	胸高直径(cm)	54.0	裸地率(%)	0
土壌硬度(mm)	7	露出根(本)	0	根株	腐朽あり
樹形・樹冠	梢端枝折れ、幹枝抜け2本		枝葉	生枝葉は梢端に僅か	
樹勢	前後に挟まるツガで被圧、枝抜け跡から腐朽が進行、辛うじて生存。				
備考	岩の上に生育している。下の枝抜け跡から根株まで腐朽が進む。				



## 自然休養林情報

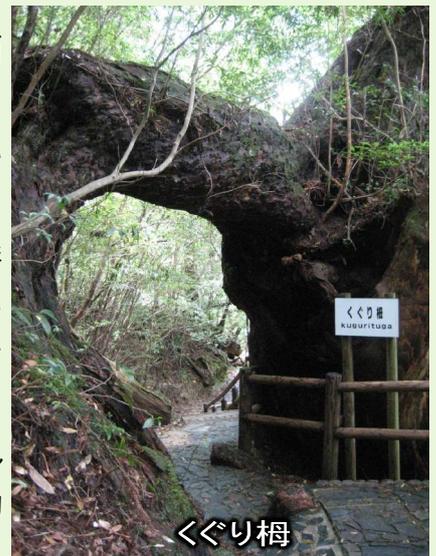
### ヤクスギランド① 概要

ヤクスギランドは、安房から約16km、標高約1000m～1300m、面積270haの広大な森の中に広がる自然休養林です。

林内には5つのコースがあり、気軽に歩くことの出来るふれあいの径コース・いにしへの森コース、川のせせらぎを耳にしながら散策できるつつじ河原コースと本格的な山道を歩くやくすぎの森コース・天文の森コースがあります。自分の趣味や興味、体力に合わせて散策しながら、ユニークな名を持つヤクスギやツガ、モミなどの巨木をご覧になれます。

ヤクスギランドは、森の循環を感じられる切り株や倒木、それらを覆いつくす緑豊かな苔、季節によって表情を変える植物や動物など、屋久島ならではの豊かな自然を身近に感じるとともに、人と自然との歴史を理解することのできる素晴らしい森です。

また、入口付近には木のぬくもりを大切にした建物「森泉」があり、ここでしか手に入れることが出来ない屋久杉工芸品を販売する売店と太忠岳と豊かな森の大パノラマを眺めながらゆっくりできる2階の休憩所を設けています。



くぐり木

